公開文書

掛川市

有機農業の推進

オーガニックビレッジの取組

令和８年10月30日

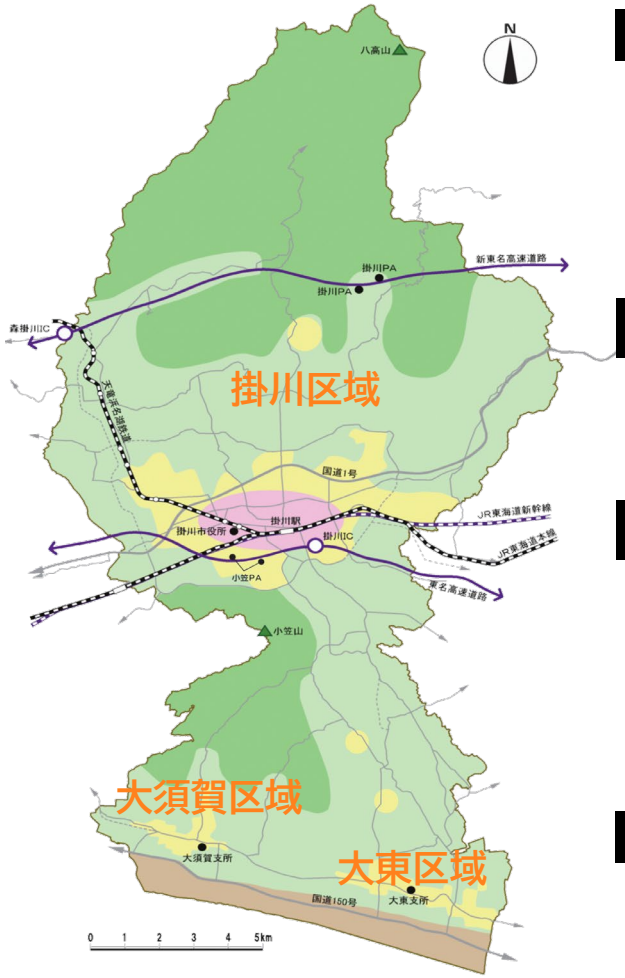
静岡県掛川市長　久保田 崇



© 掛川市 2026

掛川市の概要





■人口・世帯（R8.3月末現在）
11.3万人うち外国人0.56万人
4.8万世帯

■面積：265.69㎢
※平成17年４月１日　１市２町の合併による

■特産品
掛川茶（深蒸し煎茶）
メロン，イチゴ，葛布，
栗

■観光
掛川城，花鳥園，粟ヶ岳，
高天神城址，横須賀城址

© 掛川市 2026 公開文書

伊勢神宮奉納の様子





伊勢神宮神嘗祭　有機農産物の内宮奉納

伊勢神宮奉納プロジェクト

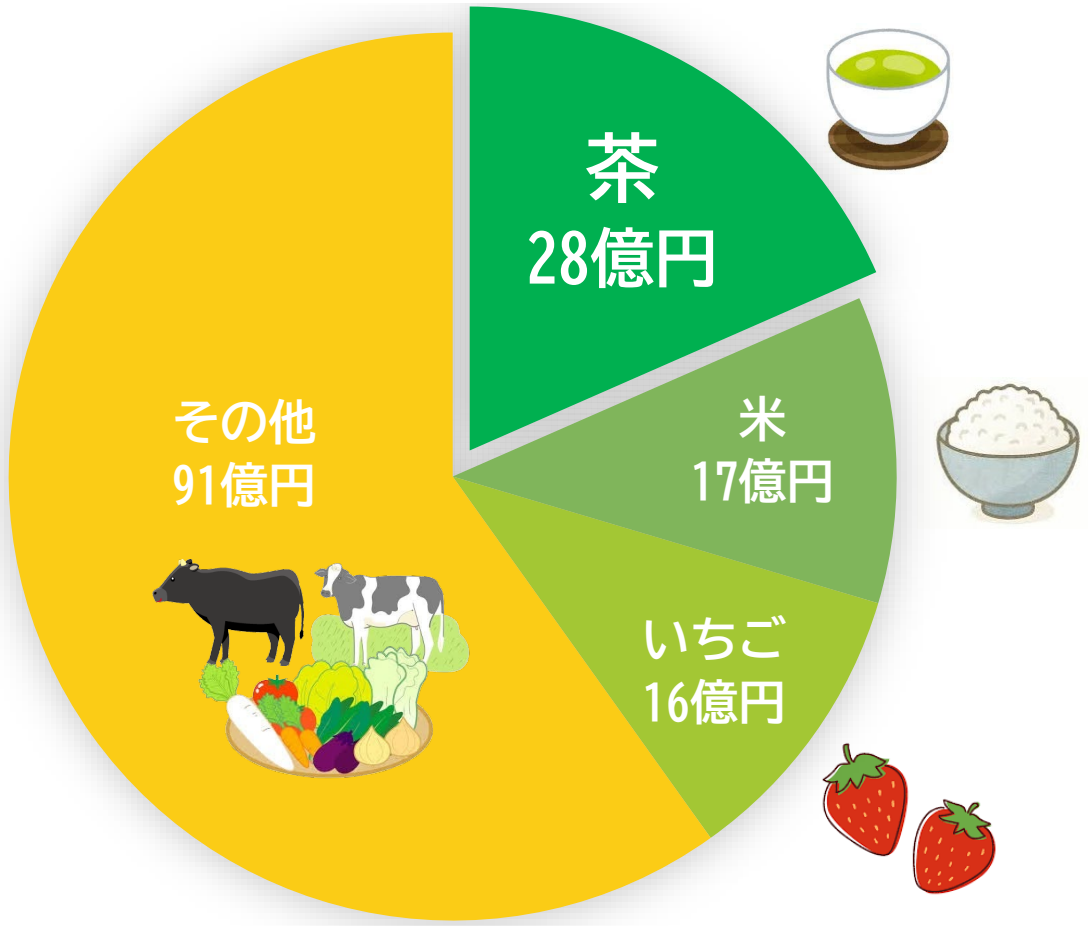


掛川の農業産出額（2025年）

掛川市の農業算出額約152億円
のうち28億円が「お茶」
（市全体の18%）

１位	浜松市	546億円
２位	富士宮市	299億円
３位	静岡市	168億円
４位	掛川市	152億円

（静岡県内農業産出額上位４位）



出典：市町村別農業産出額
「関東農政局静岡拠点」公表

© 掛川市 2026 公開文書

掛川市の特産「深蒸し煎茶」

◎深蒸し煎茶の特徴

製造方法
お茶の葉を、普通の煎茶より2倍近く長く蒸す製法

色
色あざやかな濃い緑色

味
渋みや苦味がおさえられ、まろやかな味が特徴

栄養成分
茶葉の組織がほぐれ様々な栄養成分がより多く抽出される





© 掛川市 2026 公開文書

お茶ができるまで

茶畑

茶葉の栽培



お茶工場

荒茶の生産
（第一次加工）





生産者ならびに生産者組合

茶市場

仕上げ茶製造
（第二次加工）



お茶問屋（茶商）

消費者（小売店）

© 掛川市 2026 公開文書

掛川市は、日本一の「深蒸し煎茶」茶産地



全国茶品評会
農林水産大臣賞「深蒸し煎茶の部」

第80回（令和８）株式会社 松下園　１等１席
第79回（令和７）（農）山東茶業組合
第78回（令和６）（農)東山茶業組合
第77回（令和５）（農）山東茶業組合
第76回（令和４）（農）山東茶業組合
第75回（令和３）夢路 松下園



全国茶品評会

産地賞
令和８年「深蒸し煎茶の部」
「掛川市」通算**27回**受賞　全国最多

東京都優良茶品評会

製茶問屋の出来栄えを競う品評会

「都の華」部門「農林水産大臣賞」
第54回（令和８）山啓製茶株式会社

生産者と茶商社の卓越した技術

全国でその品質の高さを評価されています。

© 掛川市 2026 公開文書

「深蒸し掛川茶」の産地　一面に広がる茶畑



掛川市における世界農業遺産「静岡の茶草場農法」

「茶草場農法」とは 茶園の畝間にススキなど「草の刈敷き」を行う伝統的農法

認定４市１町（掛川市、菊川市、島田市、牧之原市、川根本町）

世界農業遺産
静岡の茶草場農法



かっぽし（刈り取った草を干す）



刈り取った草を畝間に敷く

絶滅危惧を含む300種類以上の動植物が生息



カケガワフキバッタ（固有種）



フジタイゲキ

平成25年 世界農業遺産に認定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ＳＤＧｓを実践する農法

「生物多様性保全貢献度シール」表示



「良いお茶を作りたい」　①高品質な茶の生産

という農家の努力が、　②生物多様性の保全

この２点を両立させている<u>世界的にも希少な事例</u>

お茶における状況、有機農業と持続可能なまちづくり



◎リーフ緑茶の消費量が減少。今後も減少傾向が続くことへの懸念。

◎消費変化への適応。燃料資材費・物価高、茶価変動による経営リスク。

◎生産者の経営状況は不透明。高齢化と後継者不足が進行。

◎茶畑の耕作放棄地が増加。

将来にわたり安心して暮らせる環境を継承するため、農業分野においても
環境に配慮した取り組みを通して 持続可能なまちづくりをしていく

国のみどりの食料システム戦略に沿って、有機農業の推進を図る。
※令和４年度より、国の「有機農業産地づくり推進事業」を活用

➡海外への輸出は好調。拡大が見込まれる市場に対応した取組や、
需要の高い有機緑茶などの付加価値の高い生産・製造が有望。

海外への輸出拡大の取り組み：フラッグシップ産地

日本茶のフラッグシップ輸出産地の指定

令和7年の茶の輸出額は７２１億となり、R2年の目標を大幅に達成。
輸出先国等への規制やニーズに対応しサプライチェーンを構築し、

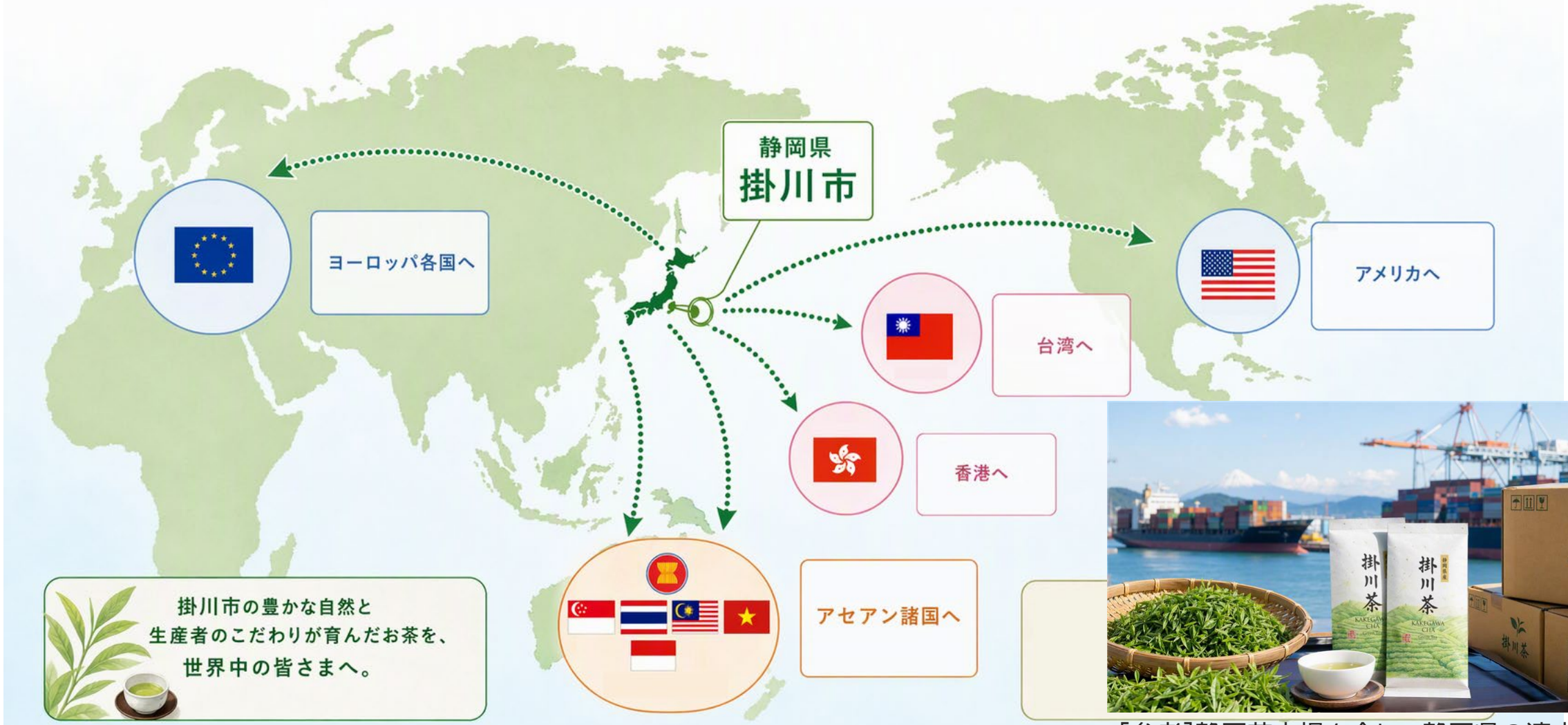
継続的に実績を上げて
取り組みの手本となる
産地を「フラッグシップ
輸出産地」に国が指定。
１２産地の指定のうち、
市内事業者も指定され、
更なる拡大発展を目指し
ます。

【フラッグシップ輸出産地:12産地】

輸出事業者名
オーガニックティーミヤザキ(宮崎県)
株式会社大石茶園(福岡県、静岡県、三重県、京都府、熊本県、宮崎県、鹿児島県)
株式会社流通サービス(静岡県)
京都府農林水産物･加工品輸出促進協議会 宇治茶部会(京都府)
静岡オーガニック抹茶株式会社(静岡県)
丸山製茶株式会社(静岡県)
鹿児島県経済農業協同組合連合会(鹿児島県)
株式会社まるゑい(三重県)
池田製茶株式会社(鹿児島県)
株式会社あいや(愛知県)
丸原水沢製茶株式会社(三重県)
有限会社萩村製茶(三重県)



静岡県掛川市から、世界へお茶をお届けしています



[参考]静岡茶市場を介して静岡県の清水港から
米国などへの共同輸送の実証事例イメージ図

掛川市の取り組み

掛川市有機農業実施計画（第１期）の策定

策　定　　令和４年度（令和５年３月31日承認）
期　間　　５カ年（令和５年度～９年度）
目　標　　・有機農業面積の拡大（R3…61.6ha → **R9…83.2ha**）
　　・有機農業者数の増加（R3…44経営体→ **R9…62経営体**）
内　容　　Ⅰ生産段階の取組（新規就農者の受入・支援体制の構築ほか）
　　Ⅱ流通、加工、消費等の取組（有機農業の情報発信ほか）

※第２期計画を令和７年度に策定し、新たな取組開始

「オーガニックビレッジ」を宣言

宣言日　令和５年４月11日※静岡県では藤枝市に次ぎ２番目の宣言
※全国で168市町村が宣言（令和8年8月末現在）

掛川市オーガニックビレッジ推進協議会

内　容　　有機農業の推進施策に関する協議、意見交換
設　立　　令和６年２月29日
委　員　　16人（有機農業実践者、消費者団体、関係団体の代表）
開催頻度　年度内３回程度



掛川市　宣言文

雄大な自然が広がり温暖な都市である掛川市では、お茶をはじめ、水稲、野菜、施設園芸等、地域の特性を生かした多様な農業が営まれています。

また、全国で初めて「生涯学習都市宣言」を行い、報徳の精神に基づくまちづくりを市政運営の理念としています。さらに「SDGs未来都市」に選定され、市民協働によるサステナブルなまちづくりを推進しています。

将来にわたり安心して暮らせる環境を継承するために、農業分野においても環境に配慮した取組が世界的に求められる時代にあって、SDGsを推進する当市は、有機農業に積極的にチャレンジしていきます。

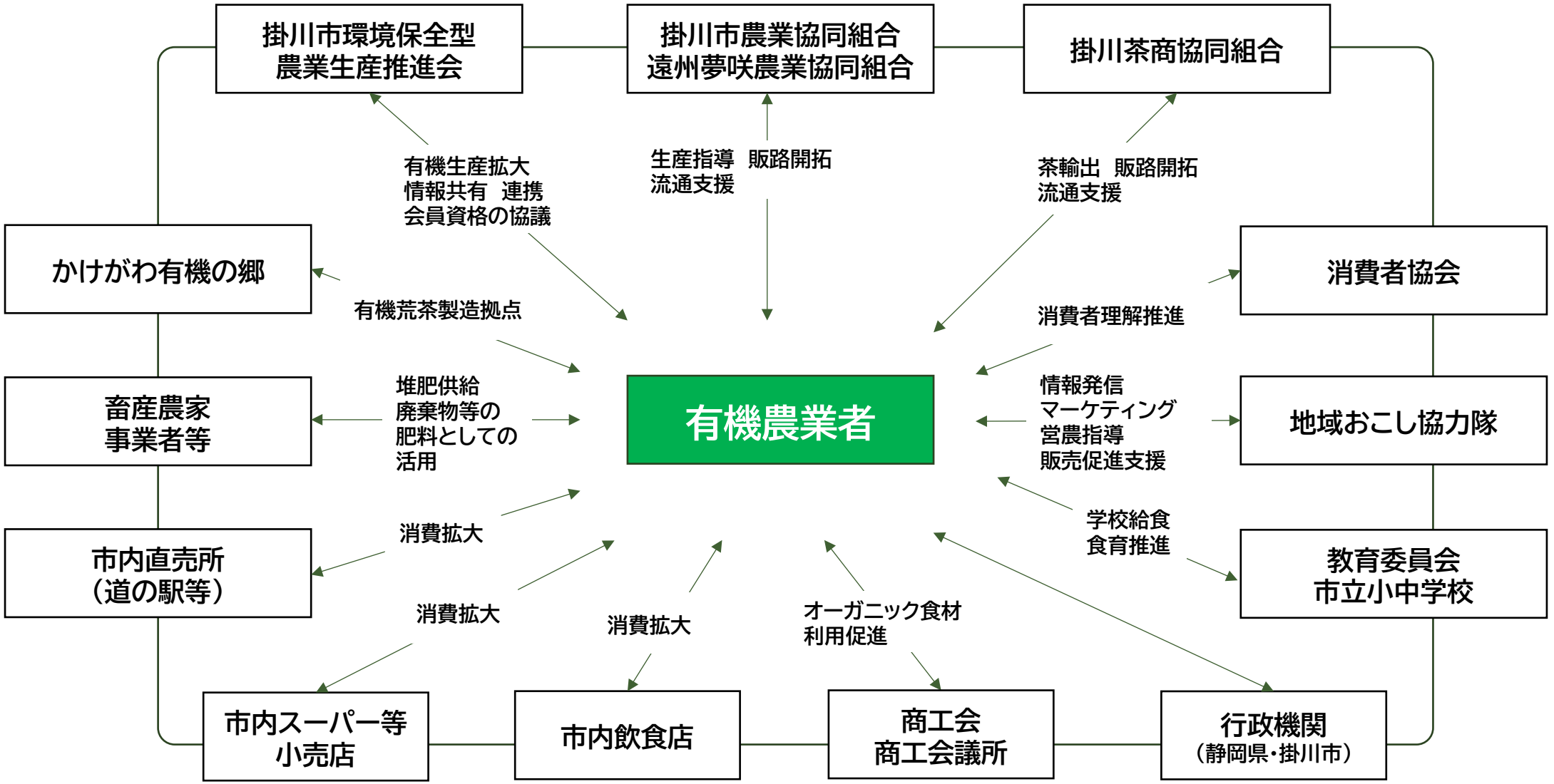
私は、みどりの食料システム戦略に沿って、有機農業推進の取組を起点とし、市民全体で持続可能なまちづくりをしていくことを誓い、掛川市がオーガニックビレッジであることを宣言いたします。

令和５年４月１１日

掛川市長　久保田 崇

取組の推進体制（オーガニックビレッジ推進協議会）



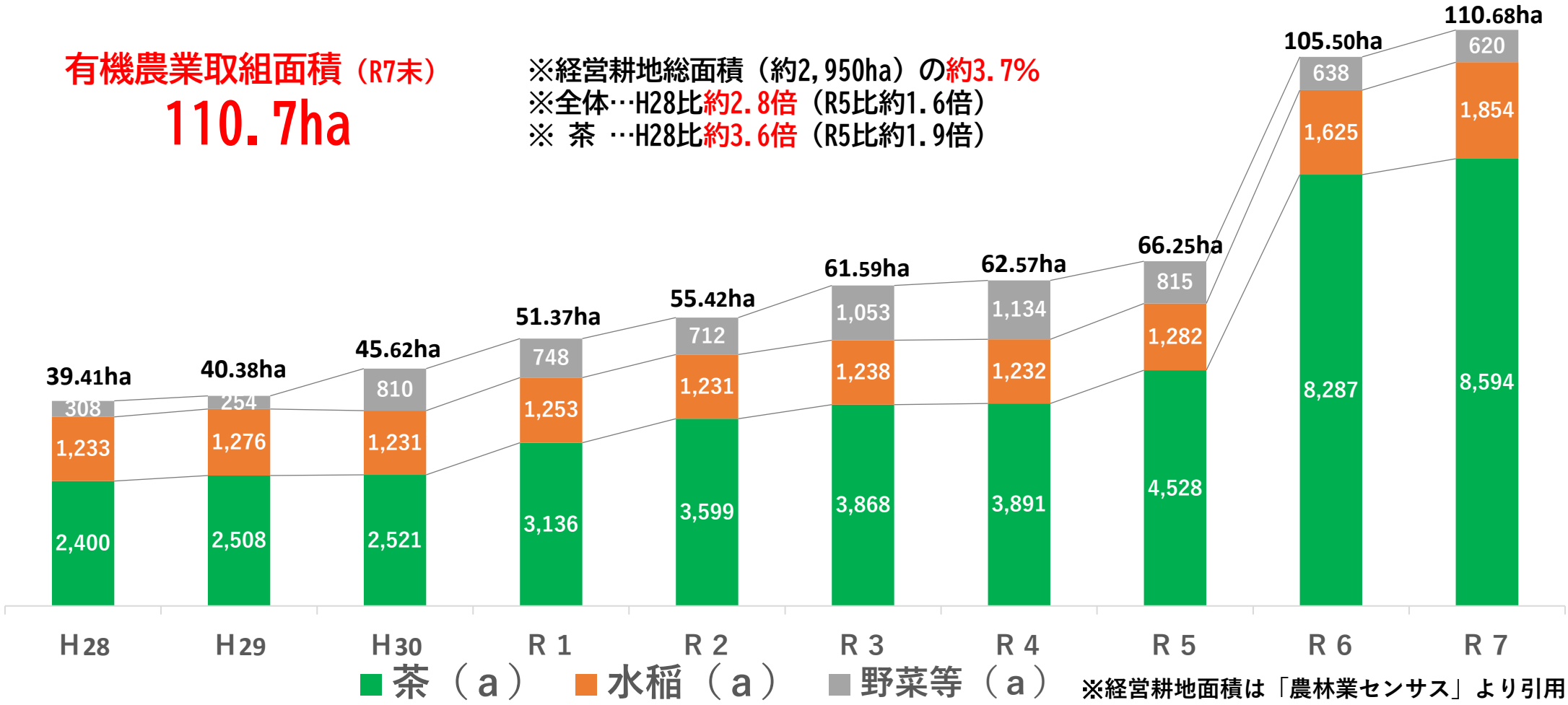


掛川市の有機農業取組面積

有機農業取組面積の推移（H28-R7）

有機農業取組面積（R7末）
110.7ha

※経営耕地総面積（約2,950ha）の約3.7%
※全体…H28比約2.8倍（R5比約1.6倍）
※ 茶 …H28比約3.6倍（R5比約1.9倍）



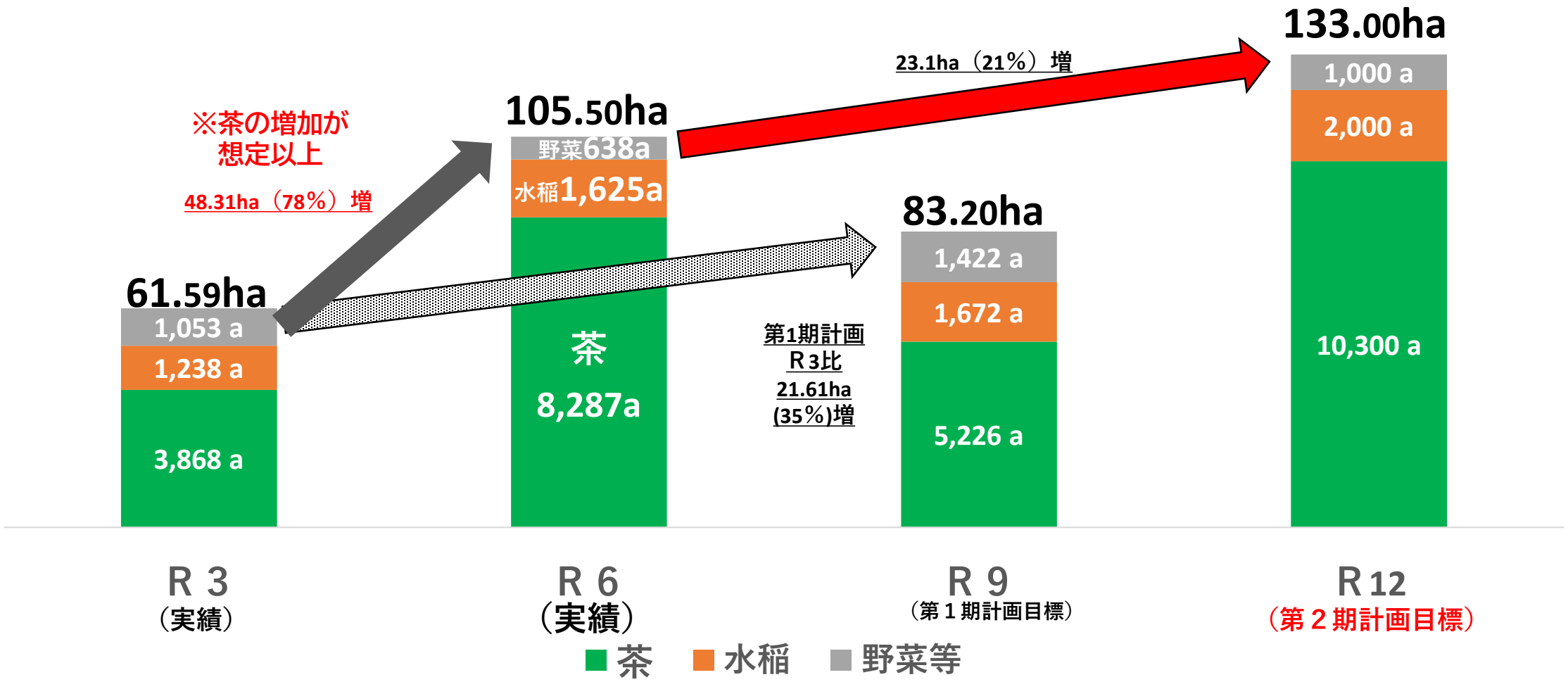
※経営耕地面積は「農林業センサス」より引用

© 掛川市 2026 公開文書

将来の目指す姿（有機農業取組面積）



・実施計画（第１期）R4策定　→　R3実績からR9目標を設定
・実施計画（第２期）R7改訂　→　R6実績からR12目標を設定



有機農業実施計画　の 構成



Ⅰ　生産段階の取組

1.新規就農者の受入・支援体制の構築

2.栽培技術指導の支援・共有

3.有機専用モデル区画の整備

Ⅱ　流通、加工、消費等の取組

1.消費促進の取組

2.茶の輸出拡大

3情報発信

4.学校給食での提供・学習機会の創出

5.専用モデル区画の整備

6.マーケティング人材の育成

具体的な取り組みⅡ4.　学校給食等での提供

目　　的	・有機農産物の消費先、販売先（出口）を確保し、参入者の増加を図る ・小中学生に有機農業に対する理解を深めてもらい、将来の消費者育成を図る
有機茶の提供	有機栽培茶（一煎茶パック） 提供 ・R7 市内小中学生と幼児（３-５歳児）あわせて、 高校生（1･2年） （対象：約13,600人　1回）
有機米の提供	学校給食において有機栽培米を提供 ・R7 市内小中学生および 市内乳幼児施設(一部) →「有機栽培野菜」も提供（人参・サツマイモ・大根）





関連事業　掛川市有機茶生産研究コンソーシアム



概　要

環境にやさしい農業の拡大を促進し、農業による環境負荷をできる限り減らし、水循環の健全性を向上させるため、掛川市と日本コカ・コーラ株式会社が連携し、持続可能な社会の実現を図ることを目指す。３年間（令和10年3月31日まで）連携して事業に取り組む。

経過等

○令和6年7月「農業生産に由来する環境負荷の低減と
水資源の保全を目的とした活動に関する連携協定」締結

○令和7年1月「掛川市有機茶生産研究コンソーシアム」設立

○令和7年2月「農業生産に由来する環境負荷の低減と
水資源の保全を目的とした活動に関する覚書」締結

〇令和7年度（3カ年の1年目）～令和９年度
年次総会（1回）、担当者会議（3回）、実証試験（通年）
※令和8･9年度も同様に事業展開、令和9年度に成果報告

関連事業　掛川市有機茶生産研究コンソーシアム



Coca-Cola

業務等の委託に関する覚書

研究費支援

研究計画・完了報告

掛川市有機茶生産研究コンソーシアム
（2025.1.15設立）

代表機関：掛川市（お茶振興課）

- 掛川市農業協同組合（茶業課）
- 静岡県農業技術研究所（茶業研究センター）

掛川市内における茶有機栽培面積拡大に向けた現地実証試験等

内容：（1）有機液肥施用時期の検討
（2）枝条管理による生葉熟度の均質化
（3）被覆栽培方法の確立
（4）個別技術を組み合わせた病害虫防除体系の実証
（5）現地実証試験成果のＰＲ活動



総会



担当者会議



実証試験（被覆栽培）



実証試験（病害虫防除）

今後の方向とまとめ

有機農業の可能性

- 健康志向やエシカル消費の高まり
- 好調な緑茶の輸出
- 学校給食の無償化

取り組みの方向性

- 担い手づくりと生産体制の強化
  （スマート農業の導入等）
- 生産、消費、事業者におよぶ
  地域ネットワークの強化
  （消費者理解、販路拡大）





ご静聴ありがとうございました

